



# ビオトープ・ニュース076

発行日 2015/04/29

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部  
 事務局：徳島市山城町東傍5-281 新弘測量設計㈱内  
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

## ■ビオトープ・サロン カワバタモロコ増殖・放流実験連絡会議の活動

今号は【カワバタモロコ増殖・放流実験連絡会議】の活動の一コマの紹介です。**野生再絶滅**が危惧される中、試行錯誤で増殖に取り組み、**10年の歳月を経て野生復帰への第一歩**となりました。連絡会議構成団体は次の通り。編集局

- ①大塚製薬株式会社徳島板野工場 ②日亜化学工業株式会社 ③鳴門市大津西小学校 ④徳島県立徳島科学技術高等学校 ⑤徳島大学（兼あおぞら財団：一般社団法人地域資源研究センター）⑥鳴門市環境政策課 ⑦水土里ネット徳島 ⑧徳島県（水産研究課・自然環境戦略課・農業基盤課・農村振興課・東部農林水産局）⑨日本ビオトープ管理士会徳島支部

### 【グッドライフアワード特別賞受賞と野生復帰に向けた放流実験】

記者：片山博之（会員）

ビオトープニュース072号で紹介しました「カワバタモロコ増殖放流実験連絡会議」の取組みについての続編になります。

さて、産官学が連携して、カワバタモロコを増殖し、放流するというこの徳島県の取組みを全国的に紹介しようということになり、この会議を当初から引っ張ってきた田代優秋氏が、**環境省のグッドライフアワード**と言う環境・社会貢献活動を表彰する式典に応募しました。その結果、**全国135件の応募**の中からグッドライフアワードの最優秀候補の10団体に選ばれ、2月から3月にかけて最優秀作品の投票が行われました。

その投票結果が、平成27年3月14日（土）に東京都文京区本郷の東京大学構内にある伊藤謝恩ホールで発表されました。そして、それぞれの団体が10分間のプレゼンテーションを行った後に、投票結果が発表されました。結果は、**グッドライフアワード特別賞**でした。個人的には、最優秀賞も狙えるかと思いましたが、今年のテーマは、環境と地産地消の融合、すなわち、環境と6次産業化の結びついた取組みがより評価されたのでは思いました。



受賞団体の集合写真（後列左から2番目がプレゼンをした田代氏）



連絡会議の有志も式典会場に駆けつけ胸を固めての参加でした



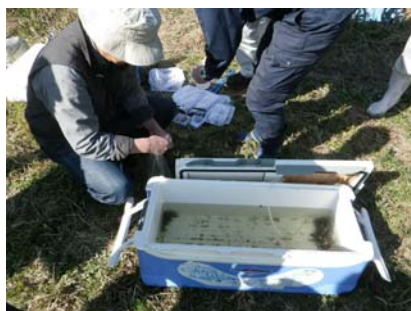
事務局からこれまでの活動の経緯が説明されました

**昨年**から計画、準備していた**放流実験**、**図らずもグッドライフアワード特別賞**という花を添え、去る3月27日、実施することができました。場所は、過去にカワバタモロコが生息していた鳴門市大津町の水路からほど近い宮ヶ谷池です。この池は、ブラックバス等の生息の有無、水質試験等を行った結果、カワバタモロコの生息に適していると判断された場所です。

当日、良い天気の中、企業、学校、行政機関が増殖したカワバタモロコを全部で**2,039匹**持ち寄り、これまでの経緯を徳島県農村振興課が説明をした後、地元の大津西小学校や徳島県立科学技術高等学校の生徒さんが次々と放流しました。放流の様子をカメラに収めながら、ついに、放流するところまできたのだなあと、感慨に浸りました。今後は、放流された稚魚などが、宮ヶ谷池に定着することができるかの**モニタリング調査**などを行い、その検証ができれば、さらに放流地を増やし、本当にカワバタモロコが**絶滅危惧種から地域の固有種として復活**を遂げ、環境教育のモデルケースとなることを切に望むところです。



各団体が持ち寄ったカワバタモロコ



個体の健全性チェックのサンプリング



地元小学生らによる放流状況

■ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報 交通ネットワークが外来種ネットワークに!?

記者：樫本幸実（会員）



【ナルトサワギクのさらなる拡大が懸念】

ビオトープ・タイプ：自動車専用道路路体法面  
 規模：W15~20m L400m  
 環境特性：自動車専用道路路体の法面（道路管理用地）  
 周辺土地利用：農業地域（蓮田・梨園・耕作地）  
 撮影年月日：2015年3月27日  
 場所：鳴門市大麻町



法面緑化に草花植栽?…と思いきや、なんとナルトサワギクでした。まるで植栽したかのように一定の間隔で株が長区間にわたり点在していました。外来種の多くは、在来の植生地が攪乱された開荒地にインベーダー(侵入者)としていち早く定着する戦略を備えています。この場所も高木植栽が施されているものの、初期緑化では開放的な草地であり、侵入種の格好の生育地のようです。やがて、樹木が生長し樹林が成立すれば衰退すると推察しますが、それまでは種子供給源となり膨大な量の種子が散布されるかと。本来、草地は地域の多様な草本が生育し、様々な昆虫や野鳥の生息地であり採餌場ですが、外来種に占拠された草地は、そこに生息する生物相も貧弱になり、生態系の劣化を招きます。スズメのお宿の藪や雑木林も減少の一途です。今のままでは生物多様性も気候変動と同様に負のスパイラルに!?

■ビオトープ・サロン お知らせコーナー ~園や学校の皆様、支援する地域の皆様へ~

今年は、隔年で開催される【全国学校・園庭ビオトープコンクール2015】の開催年です。募集のチラシから転載してのご案内です。ふるって応募して、日頃の取組の評価を得て一層の向上を目指しましょう! (編集局)

【全国学校・園庭ビオトープコンクール2015…しめきり5月31日】

森や林、草地、池、小川、浜辺など、本来、わたしたちの周りには様々なビオトープが存在しています。しかし近年は大人を優先したまちづくりが行われ、このようなビオトープが次々に姿を消してしまいました。そこで、普段の生活のなかで自然に触れ合うことができるよう、子どもたちの身近な場所である学校や園にビオトープがつくられ、わが国にもその活動が根付くようになりました。それが、「学校ビオトープ」「園庭ビオトープ」です。

この【学校・園庭ビオトープ】を広めるために始まった本コンクールも、今回で9回目を迎えました。しかし、取り組みの工夫や手法は尽きることがありません。子どもたちや活動を支える人々が増えて、さらにさらに、新しいアイデアが生み出されています。

さあ、あなたもぜひ「全国学校・園庭ビオトープコンクール2015」に参加し、自慢の取り組みをご紹介ください。きっと素晴らしい取り組みに出会い、そこからまた、新しい取り組みが全国へと広がっていきます。

公益財団法人日本生態系協会 全国学校・園庭ビオトープコンクール係

まずは、学校ビオトープまたは園庭ビオトープで検索! [www.biotopcon.org](http://www.biotopcon.org)

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより **無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【**施工部門1級の記述問題：正答と解説は次号で紹介!**】

問076：整備中で一部供用を開始した、自然環境に配慮した都市公園(広域公園)内において、オオタカが生息していることが最近確認されました。しかし、公園は既に多くの住民に利用されており、管理している自治体としては、当初の計画どおりに施設を整備し、利用者のニーズに対応したいと考えています。一方、地元の環境保護団体は、今後の公園整備の見直しを迫っています。この公園の今後の整備及び維持管理のあり方について、あなたはビオトープ管理士として公園管理者に対し、どのようなアドバイスをしますか。400字以内で述べなさい。

■前号075の解説(計画部門1級の記述問題)

例えば、【対策効果の検証】の観点からは、①モニタリングが必ずしも実施されていない、②環境対策の検討の成果が設計・施工にフィードバックできていない、③モニタリングによる対策効果に関する課題が共有されていない、などの課題がある。また、「対策により設置した施設の維持管理の継続性」の観点からは、①維持管理作業を誰がいつまで継続していくか不透明である、②中長期的な投資効果の観点が欠如している、③整備後を見込んで財政的裏付けが無く適正な維持管理ができない場合が多い、などの課題がある。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局  
 [E-mail: [kanv@nifty.com](mailto:kanv@nifty.com) URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com>]